

作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量 (高知県)

【調査結果の概要】

1 作付面積

令和5年産水稻の作付面積から、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた作付面積（子実用）は1万300ha（前年産に比べ500ha減少）となった。
また、水稻の作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は1万200ha（前年産に比べ400ha減少）となった。

2 作柄概況

(1) 高知県及び作柄表示地帯別

高知県の10a当たり収量は454kg（前年産に比べ6kg減少）となり、作況指数は100の「平年並み」となった。

作柄表示地帯別では、10a当たり収量は中東部で475kg（前年産に比べ6kg減少）、西部で421kg（同7kg減少）となり、作況指数は中東部、西部ともに100の「平年並み」となった。

(2) 早期栽培

5月上旬から下旬は、日照に恵まれたことにより分けつが促進され、穂数は「やや多い」となった。幼穂形成期にあたる6月中旬から下旬にかけて、好天の日が多かったことから、1穂当たりもみ数は「多い」となり、全もみ数は「多い」となった。全もみ数が多くなったことの相反作用により、登熟は「不良」となり、10a当たり収量は485kg（前年産に比べ3kg減少）となった。

また、農家等が使用しているふるい目幅（1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した作況指数は101の「平年並み」となった。

(3) 普通栽培

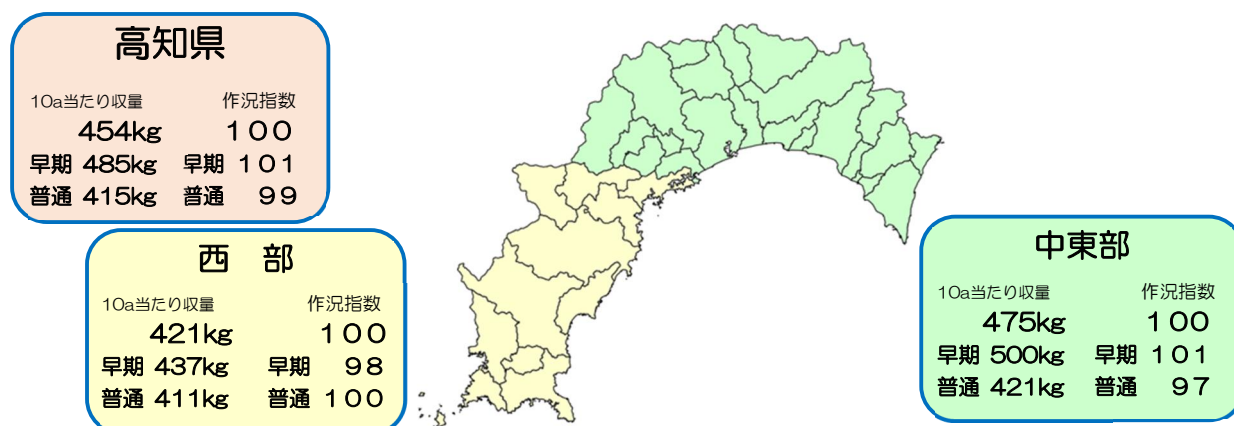
6月上旬の日照不足や低温、8月の台風第6号及び第7号の影響による断続的な降雨及び日照不足等により穂数は「やや少ない」、1穂当たりもみ数は「やや少ない」となったことにより全もみ数は「やや少ない」となった。8月は天候不順がみられたが、9月以降、天候は回復しおおむね順調に推移したことにより、登熟は「やや良」となり、10a当たり収量は415kg（前年産に比べ10kg減少）、作況指数は99の「平年並み」となった。

3 収穫量

収穫量（子実用）は、4万6,800t（前年産に比べ2,900t減少）となった。

また、主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は、4万6,300t（前年産に比べ2,500t減少）となった。

図 作柄表示地帯別 10a 当たり収量及び作況指数

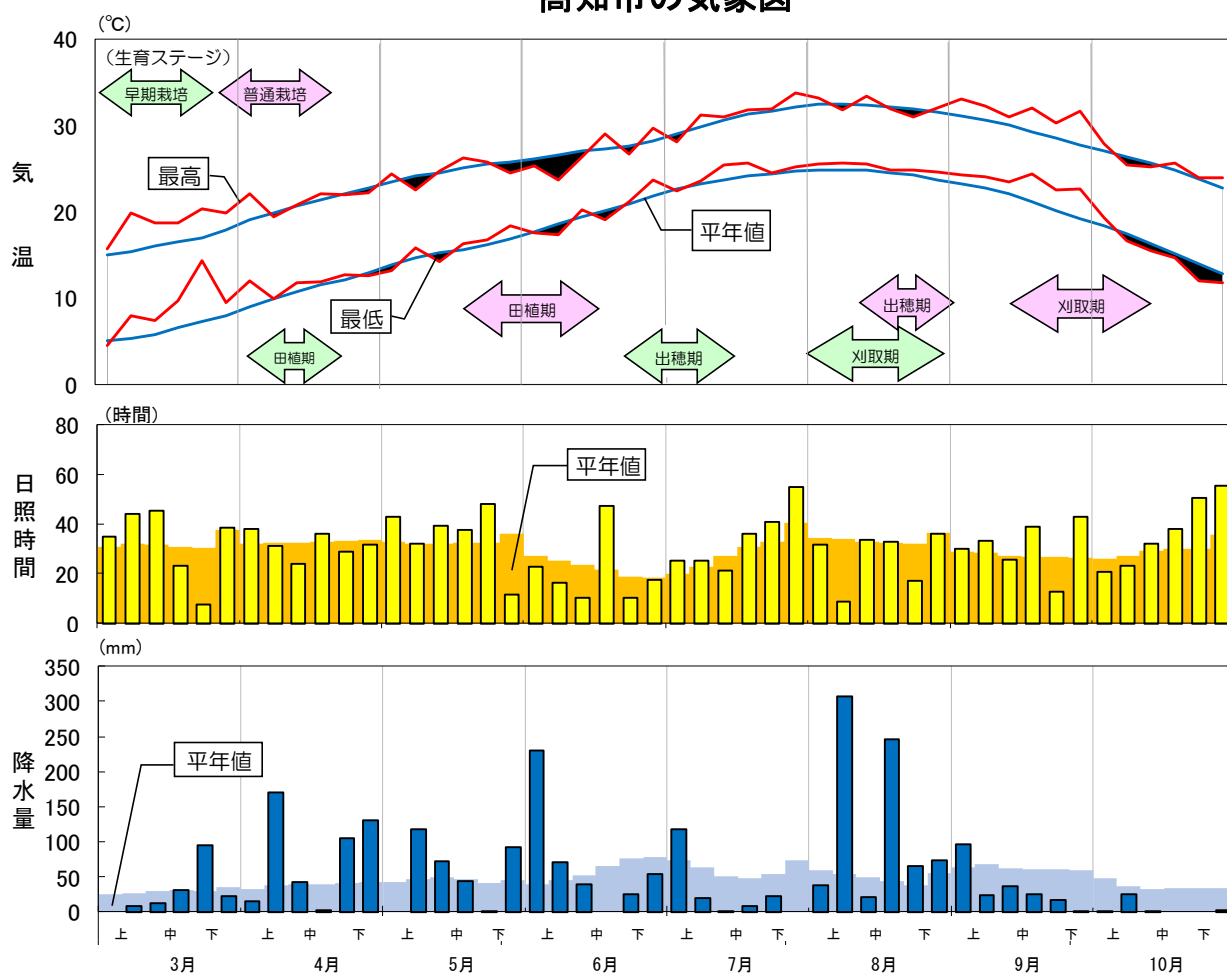


◎累年統計表

区 分	作付面積 (子実用)	10a当たり 収 量	収穫量 (子実用)	主 食 用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
高 知 県 平成30年産	11,500	441	50,700	11,400	50,300	96
令和元	11,400	420	47,900	11,300	47,500	91
2	11,300	433	48,900	11,200	48,500	93
3	11,000	451	49,600	11,000	49,600	98
4	10,800	460	49,700	10,600	48,800	100
5	10,300	454	46,800	10,200	46,300	100
早期栽培 平成30年産	6,470	465	30,100	...	...	97
令和元	6,440	455	29,300	...	...	95
2	6,380	454	29,000	...	...	94
3	6,190	475	29,400	...	...	98
4	6,010	488	29,300	...	...	101
5	5,770	485	28,000	...	...	101
普通栽培 平成30年産	5,000	411	20,600	...	...	96
令和元	4,980	375	18,700	...	...	87
2	4,950	407	20,100	...	...	93
3	4,850	420	20,400	...	...	98
4	4,750	425	20,200	...	...	100
5	4,550	415	18,900	...	...	99

◎半旬別気象図

高知市の気象図



資料：気象庁『アメダスデータ』

本資料は、「作物統計調査 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（中国地域・四国地域）」の補足資料です。

お問合せ先

中国四国農政局 高知県拠点 統計チーム

電 話：088-824-7900